

常光寺々報

2015年3月

春季彼岸会法要

三月十九日(木) 昼二時半～四時

朝霞市 浄心寺住職

講師 渡辺浄道 先生

『本願の念仏』

三月二十一日(土) 昼一時半～三時半

法話 当山住職

——人間というもの——

花まつり今年もお休みします

常例法座

四月三日(金) 昼一時半～三時半

法話 当山住職

四月二十三日(木) 朝十時～十二時

法話 当山副住職

ご講師の渡辺浄道先生には、一昨年の永代経法要にはじめてご出講いただきました。築地本願寺に勤められた後、埼玉県の新座市で都市開教を始められ、今は朝霞市に拠点を移してご活躍でございます。ご出身は九州の博多っ子で、どここのう念仏の土徳が感じられます。

前回は狭い仮本堂でしたが、この度は新装なったご本堂でのご法話になります。春ももうそこまで来ていきます。どうぞ、お楽しみにお参りご聴聞ください。ご案内を申し上げます。

落慶法要のお知らせ

永年の懸案でありました駐車場の新設とご本堂の平成大修復工事が、皆さまの多大なご尽力のおかげによりまして、無事に円成いたしました。つきましては、五月九日(土)と十日

(日)の2日間、ご本堂落慶法要を親鸞聖人七百五十回大遠忌法要と併せてお勤めすることになりました。

両日とも午後一時半からですが、九日は、本願寺勸学寮頭の徳永道雄和上にたつぷりご法話をしていただき、十日は、みやざきホスピタル副院長の宮崎幸枝先生の記念法話につづいて、式典と祝賀会を催します。改めてご案内をいたしますが、どうぞ、今から楽しみにご予定ください。

法座の案内

今年もまた、築地本願寺の常例布教に向向することになりました。

六月五日(金)～七日(日)迄の三日間で、朝は十時半～十一時半、昼は一時～二時半です。ご縁がありましたら、遠慮なくお参り聴聞ください。門の守衛さんに「聞法ホール」をお尋ねください。

望月圭介氏の講演

山本仏骨和上が若い頃、望月圭介代議士の講演を聞かれたそうですが、そのときの要旨が和上の法話集に紹介されていますので、孫引きをしてご紹介します。嘗ての日本にはこんなすばらしい政治家もおられたのかと驚いてしまいました。

望月代議士は大臣を三回も務められ、人望も厚く、世間から人情大臣とも言われていたそうですが、それだけでなく、その人望を裏付けるように御法義をよるこぶ志が非常に深かったことが、この講演の中からもよく窺えます。

『私は今日は政治の話をしに来たのではない。また世間一般のことをいおうとも思わない。仏教講演会ということだから、仏教のお話をせねばならないのですが、しかし私は専門のお坊さんでないから、むずかしいお経の話をせよと言われるてできない。そこで今日は、ただ私の

心にいただいた御安心を聞いて貰いたいと思うのです。』

『私はこの日本中の金持ち、三井・三菱・岩崎・鴻池・住友というような財閥の持つておる財産をみんなお前にやるから、お前の胸にいただいた、南無阿弥陀仏とかえてくれと言われても、私はようかえてもらわない。』

『そのような財産をみんな貰ったところで、私の後生の一大事を引受けてやろうというものが、どこにあるか。久遠劫来、親にも、兄弟にも、家内にも、子供にも、誰にも打ち明けられない、この罪業深重の私を、そのまま救うという真実のみ声は、南無阿弥陀仏を与えて下さった仏様なればこそ、はじめて聞かせて下さったのである。私の後生をほんとうに引受けてくださるものは、この南無阿弥陀仏を措いてほかにないであろうか。』

『私は今まで大臣を三遍やってきた。

しかし大臣を三遍やったということ、何が残っておるかという、何んにも残っていない。あれは私の夢だった。またお金をもうけたこともある。しかしそれもとに何んにも残っていない。あれも私の夢だった。ただこの望月圭介が、七十年の人生体験において、最後に残ったものは、南無阿弥陀仏を聞かしていただいた、これ一つである。』と、このように言い切られたといえます。そして最後に、一千名をこえる仏教青年に向かつて、

『しかし君たちは、今私の言っておることが分からないかも知れない。味が取って貰えないかも知れない。けれども、七十越したあの老人が、人生体験の最後を語っていったということだけ、どうかおぼえておいてもらいたい。』

と、涙を流して話されたそうです。

仏骨和上はそのときの講演が、「今なお私の胸を打つ」と結んでおられます。